

2050年北海道温室効果ガス排出量実質ゼロに向けた懇話会 開催要領

第1 目的

2050年までに北海道における温室効果ガス排出量の実質ゼロ（以下、「実質ゼロ」という。）を目指すにあたり、本道にふさわしい「目指す姿」やそれに向けた取組の方向性などについて、有識者から意見を聴取するため、「2050年北海道温室効果ガス排出量実質ゼロに向けた懇話会」（以下「懇話会」という。）を開催する。

第2 議題

懇話会の議題は、次のとおりとする。

- (1) 実質ゼロに向けた「2050年の目指す姿」について
- (2) 実質ゼロに向けた「取組の方向性」について
- (3) その他、実質ゼロを目指すにあたっての検討のために必要な事項

第3 構成

構成員は、学識経験者等の中から環境生活部長が選定する。

第4 運営

- (1) 懇話会は、環境生活部長が召集し、主催する。
- (2) やむを得ない事由により懇話会の開催が困難な場合においては、議事を記載した書面を構成員に送付し、その意見等を徴することで懇話会の開催に代えることができる。
- (3) 懇話会に、座長を置き、構成員の互選により、これを定める。
- (4) 座長は、懇話会の議事進行を図る。座長が不在の場合は、予め座長が指名した構成員がその職務を代行する。
- (5) 懇話会には、構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

第5 その他

- (1) 懇話会の事務局は、北海道環境生活部環境局気候変動対策課に置く。
- (2) 懇話会は、原則として公開する。
- (3) この要領に定めるもののほか、懇話会の運営に関し必要な事項は、環境生活部長が定める。

附則 この要領は、令和2年6月1日から施行する。

2050年北海道温室効果ガス排出量実質ゼロに向けた懇話会
構成員等一覧

1 構成員

所 属	役 職	氏 名
北海道大学大学院工学研究院	教授	石井 一英
生活協同組合コープさっぽろ	専務理事	中島 則裕
(株)日本政策投資銀行北海道支店	次長	廣瀬 真幸
オフィスヤスエ	代表	安江 哲
北海道大学大学院地球環境科学研究院	教授	山中 康裕

2 オブザーバー

所 属	役 職	氏 名
北海道地球温暖化防止活動推進センター (公益財団法人北海道環境財団)	センター長 (事務局長)	東郷 典彰

資料2 実質ゼロ表明（ゼロカーボンシティ）について

ゼロカーボンシティとは

○IPCC特別報告書では、「気温上昇を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるためには、**2050年までにCO2の実質排出量をゼロにすることが必要**」とされている。

○環境省では、「2050年に温室効果ガス又は二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを旨とする首長自ら又は地方自治体として公表された地方自治体」を「**ゼロカーボンシティ**」とし、国内外に発信。

○「**実質ゼロ**」とは、二酸化炭素など温室効果ガスの人為的発生源による排出量が、森林等による吸収量と均衡する、いわゆる**カーボンニュートラルを達成すること**を指すもの。

- ・17都道府県を含む91の自治体が表明（令和2年5月7日時点）
- ・人口では約6,255万人（総人口の過半数）

表明都道府県



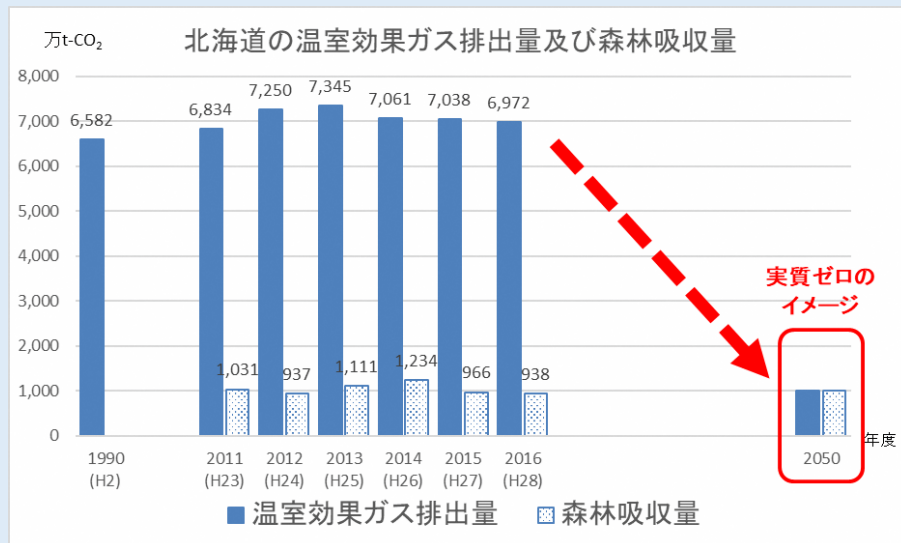
※各地方公共団体の人口合計では、都道府県と市区町村の重複を除外して計算しています。

北海道の実質ゼロ表明

○近年、北海道でも台風の上陸・接近が増加し、真夏日・熱帯夜が連続するなど、**気候変動への対応が喫緊の課題**となっているところ。

○一方、本道は、暖房や自動車などによる化石燃料の利用により、家庭や運輸部門における排出割合が全国よりも高くなっており、道民や事業者、自治体など各主体と、より一層連携・協働し、排出削減に取り組むことが重要であると認識。

○本道の強みである豊富な再生可能エネルギーや森林吸収量などの最大限の活用、さらには、積雪寒冷地である本道ならではの環境イノベーションの実現・展開などにより、高いハードルではあるが、**2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとすることを旨とする**ことを令和2年3月に表明。



資料3 国が示す将来像や取組の方向性

長期大幅削減に向けた基本的考え方 (H30.3 環境省)

- **少子高齢社会において一人一人が輝く社会に**
 - ・ 超スマート社会の実現で、家事が効率化、働き方が多様化
 - ・ 断熱住宅とICTによる健康管理・見守りで安心な生活
- **地方の将来に対しにぎわいのある地域に**
 - ・ 地域資源の活用で顔の見える生産と消費のつながり
 - ・ バイオマス資源や機能性建築物により街の高付加価値化
- **不安定化する国際情勢に対し安心できる国に**
 - ・ ガソリン代、灯油代の値上がりによる不安を覚えない燃料転換
 - ・ 資源循環による自給率の向上、国富流出ストップ

革新的環境イノベーション戦略 (R2.1 内閣府)

- **イノベーション・アクションプラン**
 - ・ カーボンニュートラルを可能とする革新的技術の確立のため、GHGを発生する原因となる活動別に5分野、16の技術課題、39テーマを設定し、それぞれに具体的なシナリオとアクションを提示。
 - ・ 技術的な切り口で整理すると、以下の5領域が重要領域。
 - ① 非化石エネルギー
 - ② エネルギーネットワーク
 - ③ 水素
 - ④ カーボンリサイクル、CCUS
 - ⑤ ゼロエミ農林水産業

パリ協定に基づく長期戦略 (R1.6 環境省)

○ **脱炭素社会は、将来に希望の持てる明るい社会でもあるべきで、次の要素を踏まえることが重要**

- ① SDGsの達成
- ② イノベーションを継続させる基盤としての「共創」
- ③ Society5.0との連携
- ④ 地域循環共生圏
- ⑤ 課題解決先進国

○ **各分野のビジョンと対策・施策の方向性**

- ① エネルギー
エネルギー転換・脱炭素化を進めるため、あらゆる選択肢とイノベーションを追及
- ② 産業
CO₂フリー水素の活用やCCUS技術の採用により脱炭素化ものづくり
- ③ 運輸
well-to-wheel Zero Emissionチャレンジに貢献
- ④ 地域・暮らし
2050年までにカーボンニュートラルでレジリエントで快適な地域と暮らしを実現/地域循環共生圏の創造
- ⑤ 吸収源対策
持続的で新たな価値を創出する農林水産業の取組

○ **「環境と成長の好循環」を実現するための横断的施策**

- ① イノベーションの推進
- ② グリーンファイナンスの推進
- ③ ビジネス主導の国際展開、国際協力




資料4 道の計画などにおける将来像

2025年の7つの将来像 (北海道総合計画より)

- ①地域全体で支える「子育て環境・最適地」
- ②北国で心豊かに暮らせる安全・安心社会
- ③**豊かな自然と共生する「環境先進モデル・北海道」**
- ④世界に広がる“憧れのくに”北海道ブランド
- ⑤北海道の潜在力を活かす地域経済の循環
- ⑥北の大地を力強く切り拓く豊富な人材
- ⑦北海道ならではの個性あふれる地域

将来像 ③



**豊かな自然と共生する
「環境先進モデル・北海道」**

～世界が注目する環境とエネルギーのパイオニアとなっている姿～

将来の具体の姿

- 人と自然、生き物がともに生きる社会づくりが進んでいます。
- 環境にやさしいスマートな省エネライフスタイルが定着しています。
- 太陽光、風力、地熱、雪氷冷熱やバイオマス*などの多様なエネルギーの導入が拡大しています。
- CO₂フリー*の水素エネルギー*などを活用する低炭素社会の取組が進んでいます。
- 環境・エネルギー産業やリサイクル産業が成長し、環境ビジネスが盛んに展開されています。

将来の姿（2050年のイメージ） (エネルギー施策懇話会報告書より)

(1) 需給一体型の新エネ活用促進

(省エネの加速化、家庭・大口需要家・地域)

- 安全性、安定供給、経済効率性、環境への適合を叶えた需給一体型の新エネ活用が一般化
- エネルギー地産地消による地域内経済循環が確立

(生活・産業・地域のイメージ)

- ・ エネルギーマネジメントシステムによるエネルギーの見える化や、既設建物の省エネ改修や運用改善が進められることなどにより、省エネが徹底されている。
- ・ 本道各地域で自立的に確保できる豊富な多様なエネルギー資源や、高気密高断熱住宅技術など積雪寒冷の気候風土で培われた技術、広大で都市間距離が長いという本道の特殊性などを積極的に活用した本道にふさわしい需給一体型の新エネ活用が展開されている。

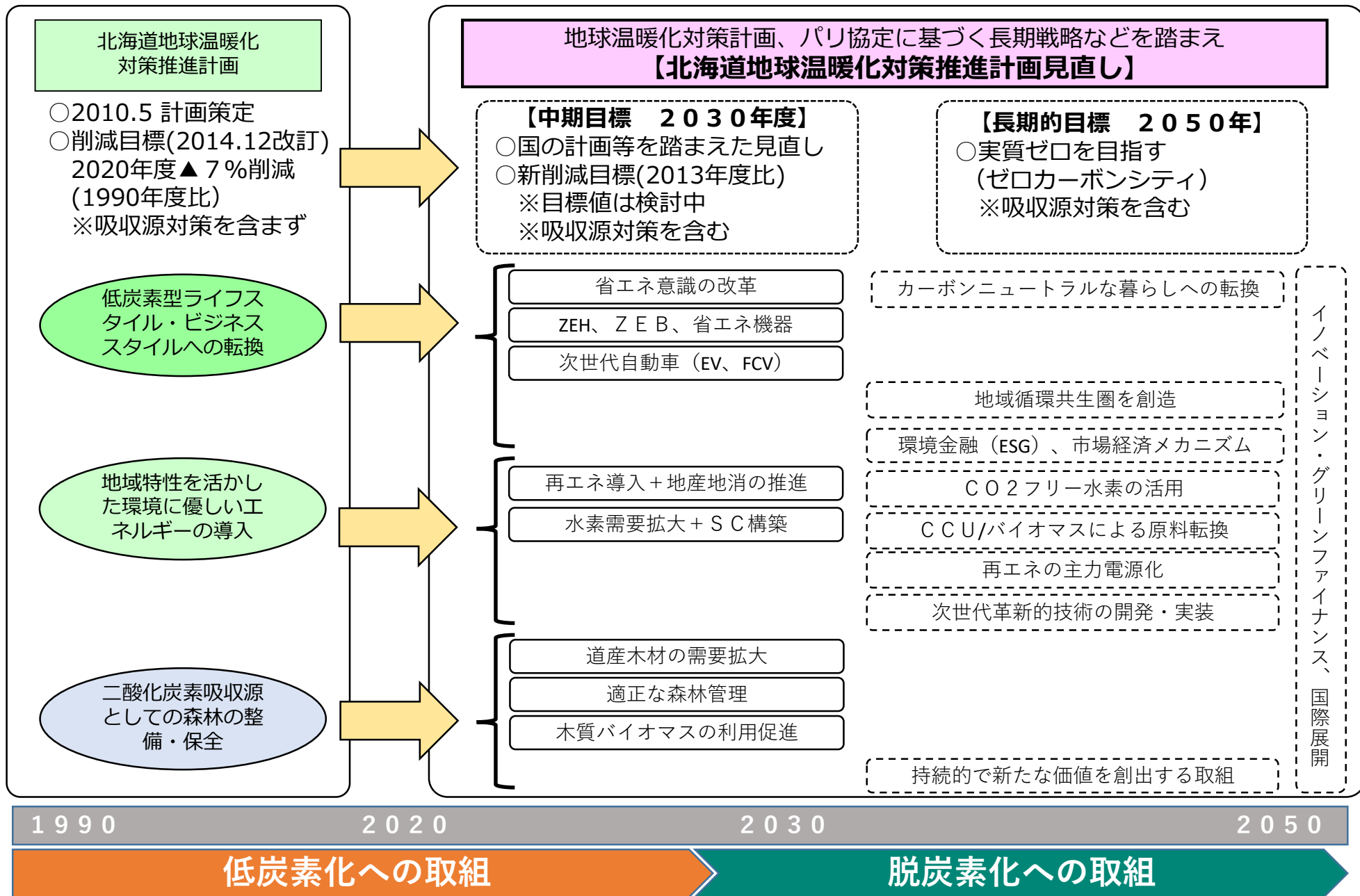
(2) エネルギー基地北海道（大規模新エネの事業環境整備）

- 地域資源を活用した道内の新エネが道内及び全国大（道外）で最大限に活用
- 国が掲げる再エネ主力電源化に貢献する「エネルギー基地北海道」が確立

(エネルギー基地北海道のイメージ)

- ・ CO₂フリーエネルギーの北海道ブランド確立により他都府県のエネルギーとの差別化が図られ道外需要が拡大している。

資料5 2050年を見据えた今後の取組の方向性のイメージ



資料6 北海道が目指すべき2050年の姿（とりまとめ構成案）

I エネルギー

【目指す姿】

-
-

【取組の方向性】

-
-

II 産業

【目指す姿】

-
-

【取組の方向性】

-
-

III 運輸

【目指す姿】

-
-

【取組の方向性】

-
-

IV 地域・くらし

【目指す姿】

-
-

【取組の方向性】

-
-

V 吸収源対策

【目指す姿】

-
-

【取組の方向性】

-
-